



特集
絵本を
届ける運動
20周年

『シャンティ』連載302号 2019年10月1日発行(1・4・7・10月の1日発行) 1985年6月28日 第三種郵便物承認

巻末言 道



教育協力と 「非認知スキル」の向上

シャンティ国際ボランティア会
理事 浜野 隆
お茶の水女子大学 基幹研究院 人間科学系 教授

1994年ごろのことです。当時東京工業大学の助手だった私は、国際教育協力の専門家になるための養成研修を受けていました。その中の1コマに、「NGOの教育協力」というセッションがあり、「曹洞宗国際ボランティア会」の方がお話に来てくださったのを覚えています。おそらく、これが私がシャンティを知る最初のきっかけだったと思います。

1995年以降、20年以上にわたって、私はアジア、アフリカの各地で教育協力、特に基礎教育分野への協力に、事業形成、評価、専門家、開発調査、研修受け入れなど、様々な形でかかわることになりました。気がつけば、大学では「教育開発論」や「国際教育協力論」を担当する教員になっていました。

現在私が勤務するお茶の水女子大学は、日本で最初の幼稚園が附設された学校であったことから、幼児教育に関して長い伝統があり、幼児教育の国際協力にも積極的です。私自身も、シャンティがカンボジアで展開する幼児教育の



カンボジアの幼稚園での読み聞かせ(2007年撮影)

調査(写真)やアフガニスタン向けの絵本作成などで一緒にすることができ、多くのことを学ばせていただきました。

現在、教育界では非認知スキル(意欲や忍耐力、社会性等の総称)が注目されています。非認知スキルは幼児期に大きく伸びると考えられており、世界的にも幼児教育への関心が高まっています。また、2018年、シャンティが事務局を務めるJNNE(教育協力NGOネットワーク)主催のセミナー「教育の質と非認知的スキル」にて、講師をさせていただきました。多くの方々に参加をいただき、教育協力において非認知スキルへの関心が高まっていることを実感しました。本の読み聞かせは子どもの向社会性(思いやり)を高めるといわれており、幼児教育も含め、シャンティの事業は、非認知スキルに関係するものが多いと感じています。学力や識字能力といった「認知スキル」のみならず「非認知スキル」への効果という点からも、今後のシャンティの教育協力に期待しています。



1999年に開始した「絵本を届ける運動」は「自分が携わった絵本を子どもたちへ届けてあげられるから」と多くの方が参加してくださっています。

この20年間、より多くの絵本を子どもたちに読んでもらえるよう試行錯誤を繰り返してきました。個人、企業、学校のみならず、絵本の翻訳ボランティア、修正ボランティアのみならず、「絵本を届ける運動」に参加して下さる全てのみなさまのおかげで、アジアの国々に約31万冊の絵本を届けることができました。

そんな「絵本を届ける運動」に参加する人々の想いを紹介します。

Shanti vol.302 CONTENTS

- 4 特集
- 18 **絵本を届ける運動20周年**
世界の絵本を読んでみよう
「隼、鹿とねずみ」
- 20 ファインダーをのぞいて
「子どもたちの地域性」
- 21 **世界の現場からAIRMAIL**
From 活動の現場 & 現地の子どもレポート
▶アフガニスタン
- 26 **Shanti@Tokyo**
- 28 シャンティな人たち
嶋田 学 奈良大学文学部教授 (司書課程担当)
- 20 残した想いを子どもたちの未来へ **遺贈寄付**
- 31 お知らせ
- 32 **道**
教育協力と「非認知スキル」の向上
理事 **浜野 隆**
(お茶の水女子大学 基幹研究院 人間科学系 教授)



今号の表紙
ブンベン市内の小学校で
2019年撮影
©Yoshifumi Kawabata

特集

絵本を届ける運動 20周年

「お菓子より絵本がいい、お菓子はすぐになくなるけど、絵本は何度でも読めるから」

シャンティが活動を開始したカンボジア難民キャンプで、ある少女が言った言葉です。

世界には紛争や貧困が理由で、学校に通うことができない子ども、家計を助けるために「ゴミ集積場など厳しい環境で働く子ども」がたくさんいます。難民キャンプで生まれる育ち、外の世界を知らない子どもたち。シャンティはそのような子どもでも一冊の絵本が教えてくれる、知らない世界を知るドキドキ、時間を忘れて夢中になる楽しさ、たくさんのお話や言葉を知る喜びに出会ってほしいと願い、絵本が不足している

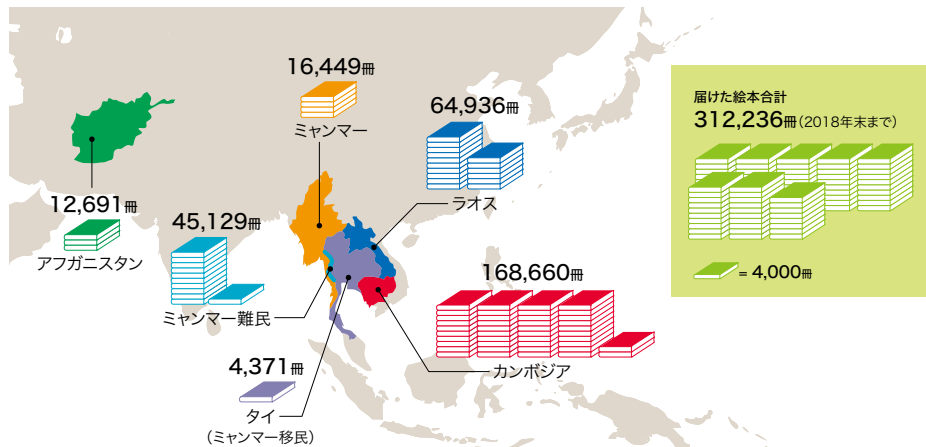
国や地域に日本から翻訳絵本を届ける「絵本を届ける運動」を開始しました。

1999年、カンボジアとラオスの2カ国に届けることから始まったこの取り組みは現在、5か国6地域に広がり、これまでに266タイトル、31万2236冊の絵本を届けました。日本の絵本に現地語の訳文シールを貼り、翻訳絵本を作るこの活動に参加した人はこれまでに24万人を越えます。近年は、SDGs（持続可能な開発目標）達成のための具体的な取り組みとして、毎年200を超える企業団体に「ご参加頂いています」。

届けてきた絵本は親から子へと愛されてきたタイトルが多く、「子どもたちが昔好きだった絵本を選びました。大学生の娘と一緒に取り組みます」「この絵本が遠い国の子どもたちの元へ届くのだと想像するとわくわくします」「子どもの中学校入学を記念して家族で参加しました」など、翻訳絵本作りを通して、世代を超えたつながりが生まれています。

シャンティはこれからも、絵本を知らない子どもが少しでも少なくなるよう、みなさんと一緒に歩んで参りたいと思います。

「絵本を届ける運動」を通じて届けた絵本の冊数





2013年より
絵本を届ける運動に参加。
現在はボランティアとしても
協力している。

池永美貴さん

就業先で「絵本を届ける運動」を知り、絵本のシール貼りイベントに参加したのが最初のきっかけです。子どもの頃に読んだ絵本を改めて手にすることがすごく新鮮でした。自分のペースで1冊から、作業量・言語も選べることで、寄付金とは違い手仕事で目に見える形に残ったものを届けるので気軽に参加しています。届ける絵本は、日本でも愛されているロングセラーの絵本から、科学絵本まで、現地のリクエストに合わせて選んでいると聞きました。年を追うごとに必要とされる絵本が変化していることを感じています。

活動を支える パートナーの みなさん

- 参加人数 : のべ247,281人
- 参加団体 : 企業・団体1,245件
- 届けた絵本 : 266タイトル/34社

横浜市立平楽中学校では、厚生活動の一環として約20年間、「絵本を届ける運動」に参加させていただいています。自分のためではなく、人のためということで気持ちを含めて作成することを意識して取り組んでいます。これからも相手のことを考えることができる人間育成を目指して、「絵本を届ける運動」に参加させていただけたらいいなと思っています。



主にキャップや
ペルマークの回収を行う。

横浜市立
平楽中学校厚生委員会



子どもたちの
より良い教育・環境
受けるための支援を
テーマに活動をしている。

国際ソロブチミスト亀岡

2004年に支援をしていた地域の幼稚園・保育所に絵本を贈呈するため、市の教育機関を訪れた際、「絵本を届ける運動」のポスターが目に入り、困難な環境にある難民キャンプの子どもたちに希望を与える素晴らしい活動に参加することに致しました。以来、毎年参加し、300冊余りの絵本を難民キャンプに届け、夢と希望を与えてくれたことをとても嬉しく思っています。今年には絵本を作るイベントを開催し、「絵本を届ける運動」を多くの方に知って頂き、遠い国の子どもたちの喜ぶ笑顔を思い浮かべながら作業をしました。

我が社では、社員一人ひとりの社会貢献への意識を高めるため、昼休みを利用したボランティア活動を毎週行っています。「絵本を届ける運動」は2005年から参加し、社内で開催する他、夏休みには社員が自宅家族と一緒に取り組む「ファミリーボランティア」として行うなど、ボランティア初体験となる子どもたちにも手軽に行える工夫をし、好評を得ています。2019年度は北海道から九州までの国内6拠点で1,600冊製作する予定です。



世界約90カ国の拠点と
協働しながら
ビジネスを展開しています。

三菱商事株式会社

絵本が拓く 子どもたちの未来

届ける想い

1999年に作られた翻訳絵本3485冊が日本を出発したのは、2000年の2月でした。その年の3月末、記念すべき最初の絵本がカンボジアとラオスの事務所に届きました。シャンティが初めて絵本を届けた小学校の一つ、カンボジアのカンダール州スタ

オ・コンラエン小学校で、先生による読み聞かせを見た当時のシャンティ職員はこのように語っています。
「先生が絵本の読み聞かせをしました。子どもは引き込まれるように耳を傾けていました。その間子どもの中には、豊かな楽しいひ

とときが流れているのだらうと思いました。
おはなしは子どもたちの心をひきつける。何よりも、苦しい生活のなか、図書館活動を熱心に、真剣に考える先生たちが、読み聞かせを続け、活動を作り上げていくのだと感じました。『子どもたちが楽しみを感じてくれることが最大の効果なのです』と語った先生のため、子どもたちのためにも日本で集めた絵本が役に立てばうれしい限りです」(シャンティ1991号 2000年より引用)

スタオ・コンラエン小学校には、当時届いた絵本が今も本棚に大切に並んでいます。ポロポロのページは図書館員によって何度も修復され、シールがはがれたページには、先生が作った手書きのシールが貼られています。このように先生の手によって守られた絵本が、今も子どもたちに力を与えています。

お気に入りの本とグリემ・ドークン(小学6年生:13歳)
(2000年5月)



2000年



最初に届けられた学校の一つ。スタオ・コンラエン小学校での読み聞かせの様子



図書館員による読み聞かせ
(2019年3月撮影:川畑嘉文)



今も当時の絵本が並ぶ本棚
(2019年3月撮影:川畑嘉文)

2019年



©Yoshifumi Kawabata

どんな絵本が届けられて いるのか

絵本を知らない子どもたちへ

▼各国のリクエストに合った絵本を

「絵本を届ける運動」を通じて届ける絵本は、各国事務所から「こんなテーマ・ジャンルの絵本が欲しい」というリクエストを受けて選定します。各事務所の活動内容や絵本を届ける地域の対象年齢、文化的背景などに応じて必要な絵本は異なります。各事務所からのリクエストを受け、東京事務所「絵本を届ける運動」担当スタッフが手分けして書店や図書館を巡って絵本を探します。

▼絵本を選ぶ基準

絵本を選ぶ際、以下のポイントに注意しています。

1) 擬態語・擬声語が少ないこと
2) レイアウト

3) 著作権者の承諾を得られるか
オノマトペと呼ばれる「ニニ」「ヤ」「けっこっこ」などの言葉は、現地語で訳しきれないことがあります。また、文章と絵の間が狭すぎたり、貼る場所が多すぎる絵本は、訳文シールを貼るのが難しくなるため選べません。一番大切なことは、出版社や著者の許可をもらえるかどうかです。絵本にシールを貼ることは著作物の改変に当たるため、著作権者の許諾が必要です。

▼著作権者の取り決め

海外へ届ける絵本はすべて出版社を通して、必要な手続きを行っています。主に、①日本語から各言語に翻訳すること ②訳文シールを作成して絵本に貼り付けること ③訳文シールの貼り付けた絵本をジャンティの事業地や公共図書館・学校図書室など公共のスペースで使用する事などの許可を得ています。

動物

動物が登場したり、動物が主人公のストーリーは子どもたちに人気です。動物がかわいくデフォルメされた絵本より、より本物に近く描かれた絵本が人気です。



ねずみのかいすいよく (ひさかたチャイルド)
しっぽのはたらき (福音館書店)
とりになったきょうりゅうのはなし (福音館書店)

外国文化

難民キャンプやスラムなど、得られる情報が限られた環境で暮らす子どもたちに、外の世界を伝え、さまざまな将来の選択肢や職業の多様さを知ることができる重要なテキストになっています。



風をつかまえたウィリアム (さ・え・ら書房)
ねずみくんおおきくなったらなにになる? (ポプラ社)
あいたい友だち (佼成出版社)

人間関係

友達を大切に思う、両親を敬うなど人や社会との関わり方を自然に学べるような絵本です。中にはアイデンティティを描いた深いメッセージを持つ絵本もあります。



むこう岸には (ほるぷ出版)
いいことをしたぞう (備成社)
うずらちゃんのかからもの (福音館書店)

科学

届けた絵本の代表的なテーマ・ジャンル

ジャンティの活動する国々では、出版数の少ないジャンルのひとつです。副読本のような本が求められ、学校の先生が教科書の代わりに使用することもあります。



ひまわり (金の星社)
たべもののたび (童心社)
にじ (福音館書店)

と夜中まで米を育てるように言い渡され、1975年のある日、家族バラバラでブレイクアウトに強制移住させられました。それまでの日常が突然奪われ、私は同年齢の子どもたち

このように思うようになった背景には、ポルポト時代を生き延びた私の経験があります。

私は1996年にシヤンティが開催した図書館研修を受講し、衝撃を受けました。この時初めて絵本を手にし、おはなしの読み方を教わり、なぜ図書館と絵本が子どもにとって大切なのかを学びました。研修終了後、私は毎日おはなし会を続けました。この時の実践が私の礎となっています。

校長となった今も伝え続けていることがあります。「本を読むと学びが深くなります。本を読まなければ目がなく働くようなもの」だと。

このように思うようになった背景には、ポルポト時代を生き延びた私の経験があります。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

（聞き手：広報・リレーションズ課 課長 鈴木暁子）

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。

この時、人々が瞬間的な感情でしか生きていないことに気づきました。その姿を見て、いかに学び、考えることが大切かを感じました。



絵本を子どもたちにつなぐ先生の思い

受け取る思い

ダイアット小学校
ノツ・ケム・シヤン校長

▶ 出版社紹介 『ぐりとぐら』などのロングセラー絵本を
福音館書店 刊行する児童書専門出版社。

『おおきなかぶ』

『おおきなかぶ』は、世界的に有名な彫刻家・佐藤忠良さんによって描かれました。戦後4年間ロシアで捕虜生活を送られた佐藤先生ならロシアの人々の本当の姿を描いてくださるにちがいないと、当時編集を担当した松居直（現在福音館書店相談役）が考えたからです。佐藤さんは、捕虜生活は厳しかったものの、市井のロシア人の人間的な温かさに触れていたもので、あの人々を描こうと思ったそうです。アトリエの大きな鏡の前でポーズをとりながら、何度も描き直し、工夫を重ね、完成しました。日本語のセンス抜群の内田莉紗子さんが「うんとこしょ どっこいしょ」という掛け声を入れてくださったことで、子どもたちもいっしょにかぶを引っ張れるようになりました。



株式会社 福音館書店
こどものとも第一編集部編集長
関根里江さん

▶ 出版社紹介 創業53年の創作絵本中心の出版社。
こぐま社 ロングセラーを大切にしています。

『わたしのワンピース』

西巻茅子先生の代表作で、2019年に50周年を迎えました。初版の頃は昔話や名作に絵を付けて絵本の形にしたものが主流の時代で、絵がお話を軽やかに語っていくこの絵本は、多くの大人に理解されなかったそうです。でも数年たった頃から、「図書館でいつも貸出中で棚にない本」として新聞で紹介され、徐々に広まっていきました。つまり、大人が理解できなかったこの本を、子どもたちはちゃんとわかって、選んでくれていたのです。天から振ってきた白いワンピースは、自然の中で、花模様、水玉模様、草の実模様と柄が変わっていきます。自然と一体になって遊ぶ子どもたちには、国の違いを超えて、共感できることが多いでしょう。



株式会社 こぐま社
編集長
関谷裕子さん

▶ 出版社紹介 創業50周年。翻訳絵本や
ほるぷ出版 国内の創作絵本を刊行しています。

『ガンピーさんのふなあそび』

1976年に刊行され、今もたくさんの人に愛されているこの絵本は、子どもだけでなく、大人に向けたメッセージも込められています。舟がひっくり返るアクシデントに、ガンピーさんはどうしたのでしょうか。子どもたちに「お茶にしようか」と言うのです。描かれているのは、天真爛漫な子どもの特性を理解していたが、怒らず、広くて深いふところを包み込む度量を持った大人の姿です（とはいえ、描かれてはいませんが子どもたちは謝ったにちがいません）。暖かい陽ざしの下でお茶を飲みながら、濡れた服が乾く頃には、みんなすっきり穏やかな気持ちに。この素敵な絵本を、これからも多くの人に手渡していきたいと思っています。



株式会社 ほるぷ出版
営業部宣伝課 課長
大久保こずえさん

▶ 出版社紹介 1936年創業の児童書専門出版社。
偕成社 多くのロングセラーを刊行。

『はらぺこあおむし』

絵本『はらぺこあおむし』は1969年にアメリカの絵本作家エリック・カールさんによって生み出されました。美しいコラージュ技法と虫食い穴に似せた穴あきかけ絵本は大人の読者にも魅力的な一冊ですが、あおむしが好きなものをたくさん食べてやがて美しい蝶になるというシンプルなお話は、食べるのが大好きでいつか大きくなることを夢見る子どもたちの心を強くとらえました。日本でも多くの子どもたちに愛されていますが、世界中の子どもたちがこの本を好きだという事実は、「子どもは国を問わずどこでも同じ」ということを何よりもよく物語っていると思います。永く読まれてほしい一冊です。



株式会社 偕成社
社長
今村正樹さん

絵本を知らない子どもたちへ

海外で愛される絵本に込められた思い

絵本の普遍性

01

絵本作家

スギヤマカナヨさん



絵本を創作し、子どもたちに
関わる活動を始めて28年になり
ます。時々、絵本についての話
をさせていただくこともあり、
その中でこんな質問を受けるこ
とがあります。「おもちゃやア
プリ、テレビやDVDでも絵本
の代替になるのでは？」

それぞれエンターテイメントと
しても教育に於いても良さがあ
ると思いますが「絵本の代替」に
はなり得ません。絵本のいいこ
ろは自由に自分のペースで関わ
れるところ。そこに広がる世界を
行ったり来たりしながら想像や
思いをめぐらせ、膨らませます。

「想像する余地」がたっぷりある
ので、「同じ絵本でも人によって感
じ方もさまざまです。」

今やスマホやインターネット
で常に他人とつながっている時
代。「つながる」ことは大事な
ことですが、一人になり自分自
身とつながる機会が少なくなっ
ているような気がします。自分
と対峙する時間は人を成長させ
ます。絵本はそんなきっかけを
与えてくれ、自分と繋がる時間
を与えてくれるものなのです。

絵本を見たり読んだりしてい
るとき、心はさまざま方向に
動いています。まさに心のスト
レッチ。体と同様、ストレッチ
は心の筋肉を鍛え、しなやかに
してくれます。また絵本は時に
好奇心を刺激し、新しい世界の
扉を開いてくれたりもします。
かこさとしさんもシャンティ

の本『わたしは10歳、本を知ら
ずに育ったの。』の巻末の詩の中
で「本は友達、お母さん、コッ
クさんや先生でもあり、お父さ
ん」とおっしゃっています。本に
はそのような役割を担える力が
あります。そんな本との出会い
は血肉となり、生きる力になっ
ていきます。それには子どもた
ちの周りに当たり前に本がある
ことが大切です。そして忘れて
はならないのは、その本と子ど
もたちをつなぐ存在です。

絵本作家としてこの世に本を
生み出していくことも重要で
すが、絵本の力を感じてもらっ
ために本と子どもたちをつなぐ担
い手の一人でもありたいと強く
思うのです。

私のお気に入り★★★★★

『世界の童話』シリーズ(小学館)

子どもの頃、母が買い揃えてくれた
シリーズで、初山滋、安野光雅、高
島華宵もこれで出会いました。間違
いなく私の血肉になっています！



絵本の普遍性

02

図書館

高宮光江さん



科学の本の読み聞かせの
会「ほんととほんと」、科学
読物研究会。東京子ども
図書館お話し講習会28期修
了、JPIC読書アドバイザー
16期。子ども図書館での
経験を機に、学校図書館
の役割、絵本と体験を結
ぶ活動に興味を持つ。

まずは絵本を手にとろう。絵
本の扉から何かが始まる。扉を
開いて中を進むうちに、あっと
いう間にその世界に入ってい
く。そこでは主人公になった
り、発見したり、体験をするの
だ。そして本を閉じる時に、冒
険から戻ってくる。その後も、
繰り返し開いては、飽きるまで
何度も体験して良いのだ。こう
して絵本の世界をじっくり過ご
すことが大事な始まりだ。

誰かが読んでくれたら絵を
たっぷり味わえる。自分で文
字を読んでいけば、行きつ戻り
つ、自分のペースで本の世界を
過ごせる。絵本の楽しみ方も
多様だ。みんなと一緒に読んで
もらう、二人で読みあう、大切

な人の膝の上で読んでもらう、
言葉や声に出して読む、一人で
じっくり静かに読む。絵の味わ
い方もさまざまだ。読んでもら
いながら絵をじっくり見る、絵
を見ながらいるんなことを語り
合う、絵だけの世界で冒険す
る。読む人、絵を見る人、一人
でも二人でも大勢でも変わる。

絵本の力は無限大だ。文字を
知ること、言葉の使い方を知る
こと、新しい世界を知ること、共
に体験すること、思い出すこと。
本の味わい方も多彩だ。

通じて想像の世界を思い切り楽
しみ、実際の世の中を知り、自
由に行き来できる。絵本の世界
をたっぷり楽しみその豊かな冒
険や体験を重ねたら、実際の世
界も勇気をもって旅立つことが
出来るのだ。

無限の可能性が手の上に乗る
紙の束から広がり、共に過ごせ
る時間を選ぶことができる。絵
本はそれ自身が時を超えて生き
続け、冒険ができる魔法のパト
ンなのだ。

人がいてこそ絵本が生きる、
絵本があるからこそ人がつな
がる。絵本というパトンを受け取
り、絵本の世界を体験し、また
次へ手渡す。あなたはその一人
なのだ。

私のお気に入り★★★★★

『みずとは なんじゃ?』(小峰書店)

作・かこさとし/絵・鈴木まもる

「水は忍者」のように変化し、身体を巡り、
生活を守る。地球の生命を守るため、未来
へ手渡す絵本のパトン。



絵本の普遍性

03

児童書
専門店

かわべあきこ
川辺陽子さん



約1万5000冊をそろえた子どもの本の専門店「教文館ナルニア国」の店長。児童書専門店勤務や大型書店の児童書担当を経て、「ナルニア国」の立ち上げにかかわる。

絵本はまだ十分に文字の読めない子どもたちのために書かれたもので、それが子どものものであるためには文字を読んでくれる大人の存在が必要です。電源を入れれば用意された番組を映しだすテレビとは違い、面倒な関係性を要求する媒体なのです。絵本は読み手と聞き手がいて初めて完成するもので、大人と子どもが時間と場所を共有することが必要とされるものといえます。

多くの方が好きだった絵本を思い出さずとき、絵本を読んでくれた人の声やシチュエーションを同時に思い浮かべていると思いますし、それ自身が絵本そのものの存在を超えた幸福な記憶につながっているのではないで

しょうか。私の家にはあまり絵本はありませんでしたが、それでも『ちいさいなうさこちゃん』や『こねこのねる』を見ると今でも、それらを読んでくれた母の声がよくあがってきます。子どもに絵本を」という掛け声の中には、「学習に役立つ」や「心を育てる」といった将来を見越した大人の思惑が多く含まれているように感じますが、そのような姿勢で絵本を与えること自体が子どもを本嫌いにする可能性を含んでいるように思います。絵本を読むときは目の前にいる子どもとの時間を楽しむことが何より大事です。幸福な絵本体験がいつか子どもの中に本に対する興味と信頼を育むことを信じて

います。

絵本は時空を超えて大人から子どもへ手渡された宝物です。100年前のイギリスで一人の子どもに向けて描かれた『ピーターラビットのおはなし』が、今でも日本の子どもたちを楽しませているのがその証拠——。優れた絵本はまだ身の回りの小さな世界しか知らない子どもたちに、世界は大きく広がっていることを教えてくれるのです。

私のお気に入り★★★★★

『ちいさいおうち』(岩波書店)

作・バージニア・リー・パートン
訳・いしいももこ

「おうち」は静かにたたずんであらゆる変化を受け入れます。だからこそこの結末は読者の心に幸福と感動を呼び起こすのです。



絵本の普遍性

04

NPO法人
理事長

えさしゆきこ
江刺由紀子さん



岩手県大船渡市生まれ。NPO法人おはなしころりん理事長。団体は30歳代から80歳代の会員44名と賛助会員約100名で構成。地方の普通のおばちゃんたちという特徴を強みに地元で活動を浸透。行政施設の管理・運営の業務を受託。絵本専門士。

東日本大震災から2週間後、

私は手にできた数冊の絵本とともに避難所の体育館に入ってしまった。途端に「あっ、ころりんが来た」バタバタと足音を響かせて子どもたちが集まってくる。不安・安堵・悲しみ・期待、様々な感情が入り混じり、どの子どもすがりつくような眼差しだった。

促されてそのまま寒い避難所の一角で読み聞かせおはなし会を始めた。すると1冊読み終える毎に、子どもたちはその本の面白さについて口々に語り始めるのだった。それからは「もっと読んで」の連続。こんな状況下でおはなしに聞き入る子どもたちを見ながら、私はできる限りの

支援活動をしようと覚悟した。

まず、避難所でのおはなし会、そして絵本を届ける移動図書館事業、高齢者が子どもへの読み聞かせを試みる事業など、8年を越える復興支援活動はいずれも絵本の力を届ける展開から企画したものだった。

子どもは絵本を入口に、そこに繰り広げられる物語の世界の楽しさを知っている。無限に広がる魅力的な世界で、心を解放して縦横無尽に飛び回って遊ぶのだ。そこで、勇気や希望や夢をかなえて力を得る。もともと子どもの心の奥に備わっている生命力が物語の世界を疑似体験しながら立ち上がってくる感だ。この絵本の楽しみは、国を越

えて共通する。岩手県大船渡市の子どもたち200人が毎年絵本を200冊作り、アジアに届けるという活動を7年間続けてきた。その間、自分でも届け先を訪問し、現地の子どもたちがどんなに喜んでいのかを見聞きし、大船渡市の子どもたちに伝えている。カンボジアのスラムでの学習環境、国境山岳地帯のミャンマー(ビルマ)難民キャンプの生活状況、そして、絵本の役割は何かを。会ったことがなくても友達。同じ地球上で同じ時代を生きる友達。絵本の楽しさを知る子ども同士が絵本でつながるこの活動は明るい未来を照らす光であると考える。

私のお気に入り★★★★★

『とべ バッタ』(偕成社)

作・田島征三

大胆な筆遣いから力強く突き進むバッタの懸命さを感じます。自分では気づいていない自身の可能性に希望を見いだす物語。



私が初めて関わった図書館は、アフガニスタンの伝統的な日干しレンガと難民キャンプで配布されたビニールシート製の屋根で、6畳くらいの一室に、50冊ちよつとの日本の絵本と、紛争でほとんどが焼かれた中からうじて残っていた数種類の本と、NGOなどが復刻した本などをかき集めて、手作りの図書棚に並べた簡素なものでした。入り口にバシウトウ語で「図書館」と書いた白い看板を掲げて開館しました。

当時のアフガニスタンは、紛争がようやく終結し、学校へ行ったことがない子どもばかり。絵本を見ることも初めての子どもたちが、本にどんな興味を示すのか、毎朝、近所の子どもたちがやってくるのを待ちました。図書館どころか学校にも行ったことがなく、子どもの居場所もない中、子どもたちは興奮して、本棚は倒され、絵本は

宙に舞い、とても收拾がつかない状態でした。これでは、貴重な絵本がすぐになくなってしまうので、一旦本棚はしまい、1冊ずつ絵本を読み聞かせすることにしました。絵本を読む場所を決め、子どもたちに並んで座ってもらうだけで一苦労です。さあ読もう！とすると子どもたちが立ち上がり、前のめりに押しつぶされたり、けんかを始めたり。それでもめげずに練習を重ねた髭面のアフガニスタン人職員が大声を張り上げて絵本を読み始めます。すると子どもたちの大きな目が一斉に吸い付けられるように絵本を見入ります。みな声を静め、お話しの世界に引き込まれていくのです。何回かお話し会を開催すると、何も言わなくても大きな子が小さな子をなだめ、早く読んでもらいたいと大人が言わなくても並んで座り、絵本の読み聞かせを待つようになりました。「子ども

たちを集めたら收拾がつかず大変なことになるぞ」と心配していた近所のおじさんたちもその様子にびっくりしていました。アフガニスタンの子どもたちにも絵本の力が効いた！とこれを機に、長年閉校していた学校が再開された際に絵本、図書館活動を紹介していきまが来るようになりました。民族、宗教を超えて絵本がアフガニスタンでも羽ばたいていったのです。子どもの頃よく読んでいた絵本が、遠く離れたアフガニスタンの子どもたちに読まれているのはとても不思議な感覚でした。

悪環境の生活や治安不安の中で、子どもの顔はこんなにも険しくなるのか、といった驚きと、光を失った目が絵本の物語に吸い込まれて再び輝く瞬間に私自身がひきつけられる、そんな経験をタイ、パキスタン、カンボジア、ネパールでさせて頂きました。

デジタル化が進む中、ページをめくる一つ一つの動作がお話しの次の展開への想像力をより掻き立てる絵本は、時に教育の機会を広げ、子どもたちが生きていくために必要な力を養い、子どもの心に寄り添い、限られた環境の中でも子どもたちの世界観を広げていくお手伝いをします。

絵本は、学校の教育現場はもちろん、学校外教育の場、成人教育の場でも活用され、紛争国や紛争後国や貧困地域、少数民族、難民キャンプ、自然災害などで被災した地域など多様な現場で使用されています。

私たちは、そんな絵本の持つ力をより多くの子どもたちに届けたいと願うとともに、皆様と共に絵本の可能性をこれからも探求していけたらと思います。

私が初めて関わった図書館は、アフガニスタンの伝統的な日干しレンガと難民キャンプで配布されたビニールシート製の屋根で、6畳くらいの一室に、50冊ちよつとの日本の絵本と、紛争でほとんどが焼かれた中からうじて残っていた数種類の本と、NGOなどが復刻した本などをかき集めて、手作りの図書棚に並べた簡素なものでした。入り口にバシウトウ語で「図書館」と書いた白い看板を掲げて開館しました。



国や時を越えても 変わらない 絵本の力

シャンティ国際ボランティア会
事務局長
山本英里

隼、鹿と ねずみ

1



あるところに隼と鹿とねず
みが仲良く暮らしていまし
た。ところがある日、隼は
鹿に言いました。「ねずみ
は小さくて何もできない。
これからは僕たち二人で仲
良く暮らそう。ねずみは必
要ないよ。」

2



それを聞いたねずみはと
ても悲しくなって言いま
した。「僕は小さくって
弱いつて？ どうか君たち
だつて僕を必要とするとき
がくるさ。」隼と鹿はねず
みを笑い飛ばすと去つてし
まいました。



3



ある日、お腹がすいた隼と
鹿は森に出かけました。森
に着くと、鹿は猟師の仕掛
けた罠にはまってしまいま
した。鹿は助けを求め、森
のたくさん動物たちが
やってきましたが、助ける
ことができません。

4

そのとき、隼はねずみのこ
とを思い出し、ねずみの家
へ飛んでいきました。隼は
鹿が罠にはまってしまった
ことを話し、ねずみに助け
を求めました。



5

ねずみは隼に「早く森へ連
れていってくれ。」と隼と
一緒に飛び立ちました。ね
ずみは鹿のところへいくと
罠を歯でちぎりはじめまし
た。ねずみは鹿を助けだし
ました。

6

隼と鹿はねずみにお礼を言
うと仲間はずれにしたこと
を謝りました。そして再び
仲良く暮らし始めました。



世界の現場から

AIRMAIL

To 日本の皆さん From 活動の現場

このページでは、
アジアの各国で活動する
シャンティの様子や
スタッフを紹介します。



From
Afghanistan
アフガニスタン

アフガニスタンでは、和平に向けた協議が続く一方で、現在もテロが多発し、人々は希望と不安を抱えて過ごしています。アフガニスタン事務所では、帰還民や国内避難民を対象にした「保護・水衛生事業」を新たに開始し、緊急支援と教育の長期的発展のためのプロジェクトを進行しています。



川畑 嘉文(フォトジャーナリスト)

Yoshifumi KAWABATA

ニューヨークの雑誌社勤務時代に9.11を経験し、記者職を捨て写真の道に進むことを決意。2002年、会社を退職しタリバン政権崩壊後のアフガニスタンを訪れ取材を行った。2005年フリーランスのフォトジャーナリストとなり、世界中の難民キャンプや貧困地域、自然災害の被災地で取材を行い、雑誌や新聞などに写真と原稿を寄稿している。

Shanti's PhotoLog

ファインダーをのぞいて



ラオス山岳地域の小学校に移動図書館がやってきた。笑顔の花を咲かせる子どもたち。

子どもたちの地域性

子どもたちの笑顔をパシヤ。こんな何気ない写真撮る時に、地域性を感じることがあります。都市部ですと、大きなカメラを持った私を見つけると面白くなって近寄ってくるケースが多々あります。一方で、はにかむようにして目をそらす地域もあります。それはラオスの山間部。ドキッとした表情を見せ、恥ずかしげに俯いてしまう。外部との接触が少ないラオスの子どもたちは外国人に慣れていないのか、それとも私がよっぽど不審にうつるのか？

時にはワーと陽気(?)なはしゃぎ声を出しながら隠れてしまう事も。さあ、追いかけてこの始まりです。蜘蛛の子を散らすように駆け出した子どもたちを、40過ぎのおじさんが追いかける姿は喜劇そのものです。



上: ラオスの山岳部へ絵本を届けるシャンティの車
下: 追いかけてこに夢中になるラオスの子どもたち



現地事務所の自立をサポート

現地事務所が国内で活動報告や支援を呼びかけられるよう、現地事務所だけで会計監査をしたり、会計報告や決算書を作成したりできるようサポートをしています。



各事務所へ出張して
経理についてレクチャー

経理に関する最新情報を共有するため、各国事務所へ出張しています。現地スタッフと対面し、ルールやマニュアルの改訂など、経理に関する細かな変更を伝え、経理処理のアドバイスなどを行っています。



瀧さんのお気に入りアイテム

[携帯用プリンター]

出張には、持ち運びできるプリンターを持参しています。事務所のプリンターを借りたり、ネットワークに繋いだりする手間を省き、すぐに必要な経理書類を印刷できるので重宝しています。



PROFILE
瀧 龍太郎さん

監査法人で勤務の際にシャンティを担当。その後、フィリピン駐在と民間会社出向を経て退職後、ボランティアとしてシャンティの活動に参加し、2016年に入職。

海外事務所の収支状況や予算の管理、公的資金の収支報告作成と会計監査対応、送金管理や海外所長会議での提案、海外の現地経理職員への財務経理上の指導などが私の主な業務です。当初、国際協力の世界の管理、公的資金の収支報告作成と会計監査対応、送金管理や海外所長会議での提案、海外の現地経理職員への財務経理上の指導などが私の主な業務です。当初、国際協力の世界を知りたいという思いから始めたボランティアとしての参加でしたが、現在は経理の幅広い業務を担当しています。

**弱者に寄り添い救済する団体として
事業を継続するためどう貢献できるか**

海外事務所とのやりとりが多く、現地経理担当者との意思疎通を丁寧かつ、まめにとること常を意識して業務にあたっています。不明点があった際には、正論だけで指摘するのではなく、柔軟に対応することが重要です。相手の立場を尊重しつつ、コミュニケーションをとりながら調整を進めます。様々な経理上の相談に対して、私が出した回答を納得し、喜んでもらえることが仕事の充実感につながっています。

入職当時は、経理や財務諸表や会計の知識がNGOでこれほど必要とされているとは思っていませんでした。本来、弱者に寄り添い救済することが目的の組織が、採算を気にするあまり、弱者を切り捨ててしまっているのか、悩むこともあり、難しい課題です。政府資金のNGOへ支援増額が決定し、私たちの活動への期待が高まっている。今、社会のニーズに応えることができれば、資金調達も広がり、民間企業からもNGOへ飛び込む多様な人材も増えるはずですが、シャンティの活動を健全に維持するために自分ごとまで貢献できるか常に考えています。



嶋田学

奈良大学 文学部教授（司書課程担当）

長年、図書館の現場で活躍され、図書館経営や図書館ネットワークづくりに携わってこられた嶋田様に、人々の可能性を応援する本や図書館についてお話を伺いました。

1963年大阪生まれ。豊中市立図書館、滋賀県旧永源寺町図書館準備室、東近江市立八日市図書館、能登川図書館、永源寺図書館などを経て、2011年4月、岡山県瀬戸内市の新図書館開設準備室長に着任。2016年6月から瀬戸内市民図書館館長。2019年4月から奈良大学文学部教授（司書課程）。

2019年4月から、母校の奈良大学で司書課程の教員をしています。1986年に大学を卒業後、民間企業勤務を経て、1987年から大阪府豊中市立図書館で司書としてのキャリアをスタートしました。1998年10月からは、滋賀県旧永源寺町の図書館準備室で新たな図書館整備の仕事を2年間した後、2000年10月に永源寺町立図書館を開館させました。

2005年2月には、1市6町による市町村合併により東近江市立永源寺図書館となった図書館で勤務を続け

ていましたが、2006年に同市八日市図書館、2008年には同市能登川図書館に異動、2009年に再び永源寺図書館に戻り、開館10周年記念事業を企画、開催する機会に恵まれました。

その後、2011年4月からは、ご縁があって岡山県瀬戸内市の新図書館館長候補者として転籍し、新図書館整備の仕事や学校図書館をはじめとした図書館ネットワークづくりなどの業務にもあたりました。市民との協働による基本計画策定や設計案の調整など、丁寧な図書館づくりを進めた結果、2016年6月1日に瀬戸内市民図書館もみわ広場がオープンしました。

以前から図書館経営や図書館論に関心があり、在野での研究や非常勤講師として教育の仕事にも少し関わらせていただいております。

当時、ボランティアの広報課

長であられた鎌倉幸子さんと知人を通しておはなしさせて頂く機会を得ました。東北での「走れ東北！移動図書館プロジェクト」を軌道に乗せられたぐらいの時期だったと思います。ボランティアの事務所

図書館員は、みなさんが願う人生、こうしたいという可能性を応援し、役立ちたいと考えて働いています。ご自分の人生で必要な情報や、やってみたいこと、解決したい問題など、遠慮なく図書館に持ち寄って頂ければと思います。司書は、図書館にある膨大な資料や情報から、きつとみなさんの必要とする「何か」をガイドしてくれるもの

人間、幸せになるために生きていくと思うのです。あるいは生きたいように生きた結果、幸福という心象につながる、と言いましょか。「学び」や「仕事」は、そうした結果につながるものとして、世の中にあってほしい。少なくとも、自分がかかわる仕事は、そこで出会った人々の幸せ、そして自分自身の幸福につながるものとなるようにしたい、というのが大切にしてきたことです。

生きていく力の大切なもの一つとして、「読むこと」をすくい上げ、特に支援が必要な地域の子どもたちに、絵本を届ける仕事、そして、図書館をつくる事業を推進しておられるボランティアのみなさんには、言葉で表現しきれない敬意を感じています。引き続き、人類という仲間を見据えているボランティアのみなさんのお仕事を少しでも応援していければと思います。



シャンティからのお知らせ

新執行部の就任

2019年7月10日に開催した「中期事業戦略発表会」にて、2019年から6年間の中期事業計画と、新執行部の就任を発表いたしました。新執行部の3名が中心となり、中期事業計画を推進して参ります。

■新執行部

専務理事 岡本 和幸
事務局長 山本 英里
アジア地域ディレクター 八木澤 克昌



東京事務所内の組織改編を行いました

■事業サポート課

▶事業サポートチーム ▶海外緊急救援
▶企画調査

■クラフトエイド課

■地球市民事業課

▶国内事業展開チーム ▶国内緊急救援チーム

■広報・リレーションズ課

▶マーケティングチーム
•絵本を届ける運動 •会員・アジアの図書館サポーター
•もので寄付するプロジェクト

▶支援者リレーションチーム ▶広報

•宗教担当、法人担当

■経理課

▶財務、経理 ▶総務・人事部
▶人事・労務、総務・庶務、IT

人事のお知らせ

●入職

谷島 緑 事業サポート課 (7/1付)

●退職

永井 新生 事業サポート課 海外緊急救援担当 (7/29付)

飯嶋 麻里 地球市民事業課 (8/31付)

渡辺 ちひろ クラフトエイド課 課長補佐 (9/30付)

●組織改編に伴う主な異動 (7/1付)

市川 斉 ミャンマー事務所長

関 尚士 地球市民事業課長

山本 英里 事務局長 兼 アフガニスタン事務所長

中原 亜紀 ミャンマー国境支援事業事務所長

菊池 礼乃 事業サポート課長

編集後記

7月にカンボジアとラオスを訪ね、「絵本を届ける運動」を通じて届けられた絵本が活用されている様子を見てきました。図書館には、最近届けた本もあれば、十数年前の本も。移動図書館車で訪ねた村の子どもたちは、我先にと好きな絵本を選び、声に出して物語を読んでいた。(召田安宏)

シャンティ 2019年秋号 (通巻302号) | 2019年10月1日発行

発行人: 若林恭英

発行所: 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
〒160-0015東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階
TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220
WEB: www.sva.or.jp E-Mail: info@sva.or.jp

編集人: 山本英里、鈴木晶子

編集・制作: 株式会社文化工房

イラスト: きよはらえみこ

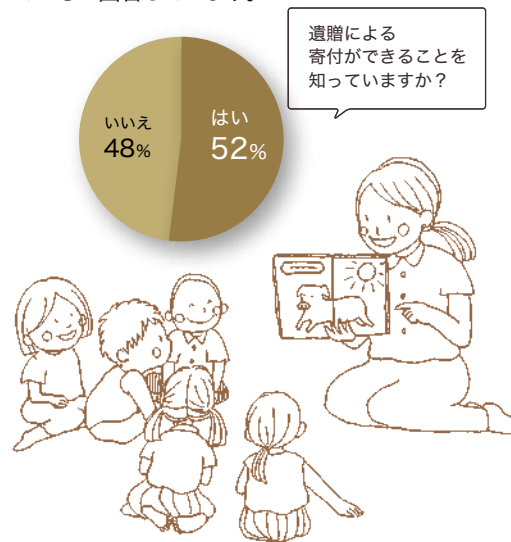
印刷: 株式会社サンエー印刷

当会へのご寄付は、所得税、住民税、および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。
©Shanti Volunteer Association.
「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷しています。

アンケート調査からみる 遺贈寄付の意識

現在5人に1人が「遺贈寄付の意向がある」という回答があります。(日本財団「遺贈に関する意識調査2017」)

シャンティのご支援者様へのアンケートでは、52%の方が遺贈による寄付ができることを知っているという回答をしています。



シャンティ遺贈寄付

近年、遺される財産や相続された財産の一部を、未来を担う子どもたちへの教育を支援する活動に役に立ててほしいというお申し出をいただくことがございます。遺産・相続財産等のご寄付に関するお手続きはパンフレットにてご案内しております。ご希望の方には無料でお送りいたします。また個別のご相談も受け付けております。

お問い合わせ
広報・リレーションズ課
電話: 03-6457-4585



遺贈寄付

For the Children's future

遺した想いを
子どもたちの未来へ

遺贈寄付とは、

人生最後の「思い」を、

ご自身のいなくなった後の

社会に残すこと。

自分の歩んできた人生を

肯定しながら、

振り返ることから

終活がはじまります。

終活を通じて何か社会のために

役立つことをしたいという

気持ちを形にする方法の一つが

遺贈寄付です。

なお、終活に関する

社会の関心が高まる中、

本年相続法が改正されるなど、

制度面でも

新しい動きがでています。